

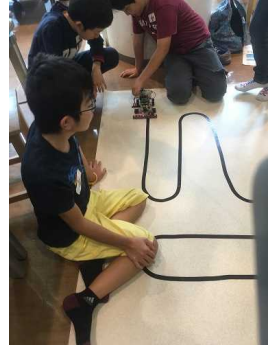


YMNだより

令和元年8月8日 第61号
発行 やまがた メイカーズ ネットワーク
(略称: YMN 代表 大津 清)
涵養塾(山形市清住町)内 YMN 事務局

第2回ロボットレース製作講習会を開催しました

去る令和元年6月30日(日)10時30分より14時30分に山形県産業科学館4階発明工房で子供向け「第2回ロボットレース製作講習会」(主催: YMN、共催: 山形県産業科学館主管: やまがたロボットクラブ)を開催しました。講師は齋藤薫YMN事務局長(やまがたロボットクラブ)はじめYMN会員の他に山形工業高校の生徒1名や山形市立第六中学校の生徒1名からもサポートしていただきました。



内容は、8月25日(日)のロボットレース山形大会に向けて、前回のロボット組み立てに続き、ロボットレースロボットのプログラミングを行いました。

また、ロボットは3Dプリンターで製作した部品も使用しているので、3Dプリンターの概要やしくみ、そして体験を行いました。実際にパンダアクセサリを造形し、色づけをしました。さらに、ロボットの紹介として、NAOロボットやottoロボットも実演しました。参加者は、ロボットを完成させて、思い思いにライトレースのコースをつくり、走行テストを行いました。

第3回目は、大会に向けて、ロボットレースロボットの創意工夫を重ねて、より完成度を高めます。

参加者の皆さん、ありがとうございました。

「地域発! いいもの好事例集」の取材を受けました

去る令和元年7月10日(水)に午後1時30分より山形盲学校で、午後4時より寒河江工業高等学校で、「地域発! いいもの好事例集」作成に係わる取材を受けました。「地域発! いいもの」とは、厚生労働省の委託事業を受けた中央職業能力開発協会が技能振興の取り組みを「地域発! いいもの」として選定してものです。



YMNが選定され、その事例集を冊子にまとめるために取材をいただきました。冊子は全国で9事例、40ページ(カラー)、6000部を作成し、都道府県技能振興コーナーから業界団体等の関係機関へ配付されるということです。

東京よりライター及びカメラマンが駆け付けて、山形盲学校と寒河江工業高校において、インタビューや撮影が行われました。写真は山形盲学校の先生のインタビューの様子です。

冊子の完成が待ち遠しいです。

山形市市民活動支援基金実績報告書にYMNの取り組みが掲載

平成30年度山形市市民活動支援基金—山形市コミュニティファンド—実績報告書に YMN 実績報告が掲載されました。これは、昨年度の平成30年度に公開プレゼンテーション補助支援事業を受けて、実績報告したものです。

支援事業名: 山形の未来を拓く21世紀型能力を育む推進事業

～世界最先端の技術を山形市の小中学生に～

ご覧下さい。山形市コミュニティファンドの関係者の皆さんや支援事業にご支援、ご協力をいただきました皆さんに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

《公開プレゼンテーション補助》

補助額 300,000円

やまがた メイカーズ ネットワーク

山形の未来を拓く21世紀型能力を育む推進事業—世界最先端の技術を山形市の小中学生に～

事業内容

本事業は、これからの次代を生き抜く習熟型能力をもつ人材を育成するために、3Dプリンター教室やScratch教室を行い、創造的な学習活動を展開することを目的としています。
3Dプリンター教室では、3Dプリンターを手作りするところから完成した3Dプリンターを活用するまでの流れを山形市内中学校3校の生徒たちに体験してもらい、参加した中学校に3Dプリンターを贈呈しました。

Scratch教室では、ゲームの制作を通じて、プログラミング教育を行うとともに制作者も取り入れて、実践しました。
21世紀型能力とは主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、技術革新したり、多様な働きと職業したりして、新しい職業を生み出すことです。

事業の成果と感想

3Dプリンター教室では、3Dプリンターの仕組みや役割を理解するとこみから始まり、グループごとに協力しながら3Dプリンターを組み立てることで、大きな達成感と達成感を味わってもらいました。また、Scratch教室では、プログラミングを実践しながら創意工夫を行うことで、プログラミングの楽しさ・面白さを体験してもらいました。

この事業の全体を通じて、科学技術やものづくりに対する興味・関心を持ち、創意工夫や探究することの大切さ、またコミュニケーションの重要性を感じてもらえることができました。そして、子どもたちのチャレンジを上げ、21世紀型能力の育成に寄与することができました。

